ダイワ／ミレーアセット・インド株式ファンド －インドの匠－

最近のインド株式市況と今後の見通し

～原油価格の上昇、米国の長期金利上昇などから軟調な展開、中長期では企業利益を反映した相場展開を予想～

※当資料は、ミレーアセット・グローバル・インベストメンツ（香港）リミテッドのコメント・データ等を基に大和投資信託が作成したものです。
※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

2018年9月10日

お伝えしたいポイント

- **最近の市場環境：** 米国の長期金利上昇、原油価格上昇に伴うインフレ懸念、米中貿易摩擦などから下落基調が継続していたが、直近は戻り基調。
- **今後の見通し：** 中長期では、原油価格など外部環境の安定につれて、企業利益への注目度が高まり、大型株より成長ポテンシャルの大きい中型株への関心が高まっていくことを予想。

≪基準価額・純資産の推移≫　※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2018年8月31日現在

基準価額	8,845 円
純資産総額	576億円

期間別騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	+2.6 %
3カ月間	+2.1 %
6カ月間	-2.3 %
1年間	-----
3年間	-----
5年間	-----
年初来	-12.6 %
設定来	-11.6 %

当初設定日（2017年12月11日）～2018年8月31日

※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。
※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の月末までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。
※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

当資料のお取り扱いにおけるご注意
■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
販売会社等についてのお問い合わせ⇒　大和投資信託　フリーダイヤル0120-106212（営業日の9:00～17:00 ）　HP http://www.daiwa-am.co.jp/

大和投資信託
Daiwa Asset Management

年初来の市場環境

＜年初来のSensexおよびNifty Midcap 100の動きについて＞

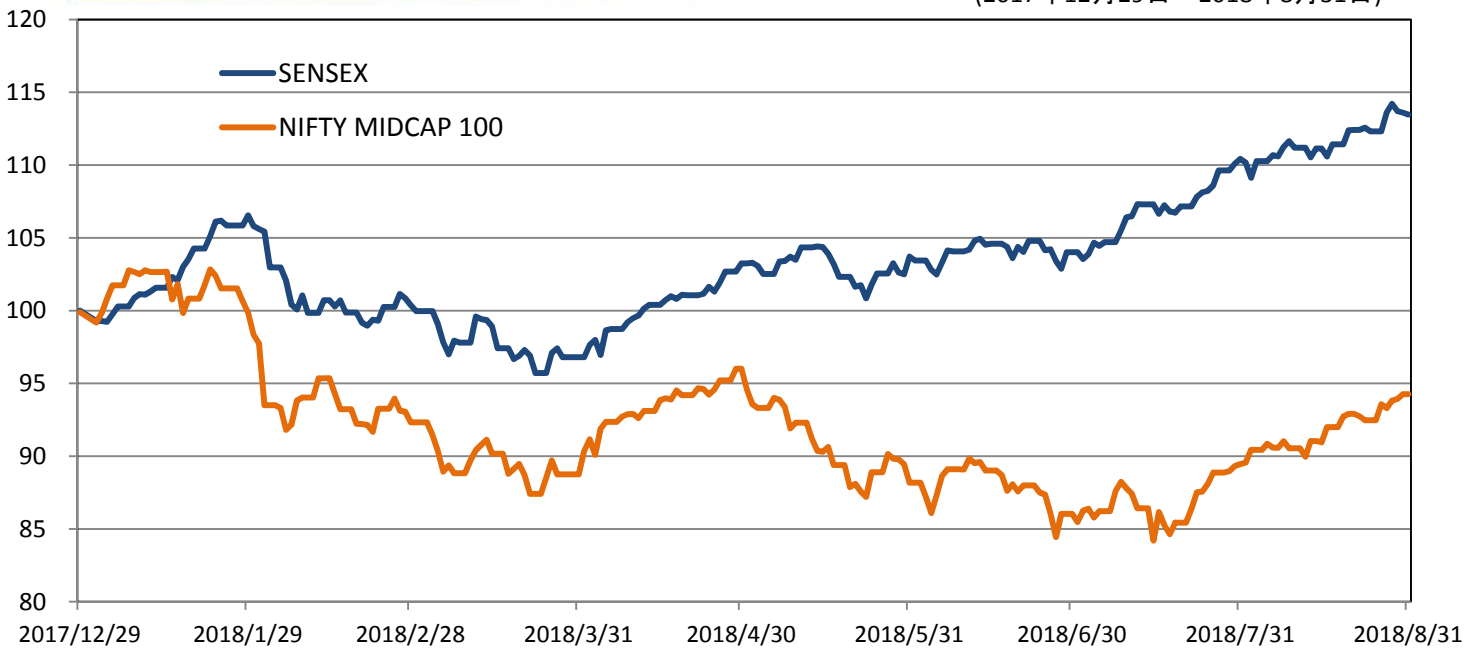
【インド株式市場】

年初来のインド株式市場は、原油価格上昇などの外部環境の悪化、米国の長期金利上昇、一部の国営銀行の不祥事などで投資家心理が悪化したことなどから軟調な展開が続きました。しかし、7月以降は、原油価格の下落や、金融機関の不良債権処理進展期待などを反映して、反発の兆しをみせています。

大型株の代表指数であるSensexは年初来好調なパフォーマンスを見せている反面、中型株の代表指数であるNifty Midcap 100は低迷しています。

＜SensexとNifty Midcap 100の年初来推移＞

(2017年12月29日～2018年8月31日)



※ 2017年12月29日を100として指数化　　出所：ブルームバーグ

今年に入ってSensex(大型株)とNifty Midcap 100(中型株)の差が大きく広がった理由として、3つの要因があると考えられます。

1) 外部環境の悪化に伴う大型株選好

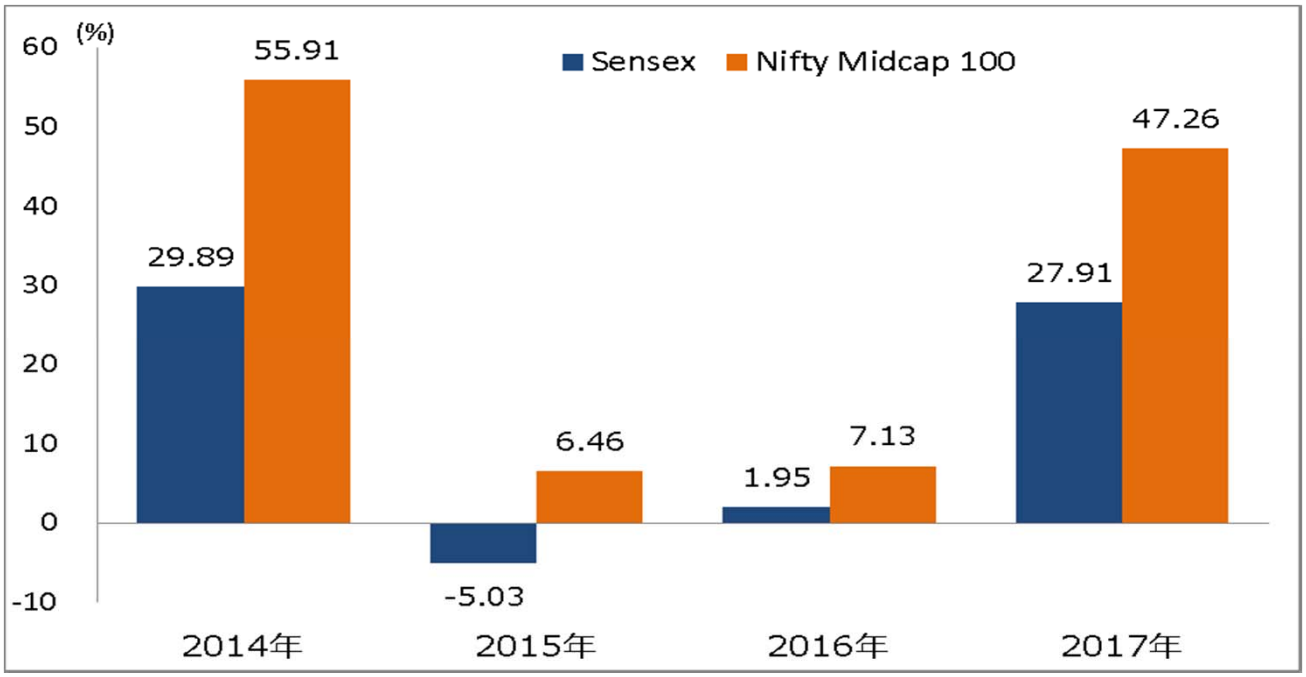
インド最大の輸入品である原油価格の上昇やインド・ルピー安による経常収支悪化、米国の長期金利上昇、米中貿易摩擦などを受けた市場の不透明感の強まりから、相対的に安全な投資先である大型株へのシフトが加速しました。

なお、金利上昇による収益向上や不良債権処理進展への期待などを受けた大型金融株、海外ビジネスの割合が多くインド・ルピー安の恩恵を受けるIT関連株、原油価格上昇で利益拡大が期待されるエネルギー関連株など、Sensexでウエートが高い銘柄への資金流入が増えたこともSensexのパフォーマンスをけん引する要因となりました。

2) 中型株における過熱感への警戒

ここ数年間、Nifty Midcap 100のパフォーマンスがSensexを大幅に上回ったことから、中型株に対する高いバリュエーションや過熱感への警戒が強まったことに加え、不安定な外部環境が中型株の調整をもたらしたと考えられます。

＜直近4年間のSensex、Nifty Midcap 100のパフォーマンス比較＞



出所：ブルームバーグ

3) 制度変化が招いた中型株におけるネガティブな需給環境

今年4月のキャピタルゲイン税の導入発表で、課税を回避するために直近数年間高い収益を上げてきた中型株を売却する動きが強まったことも中型株にネガティブな材料でした。

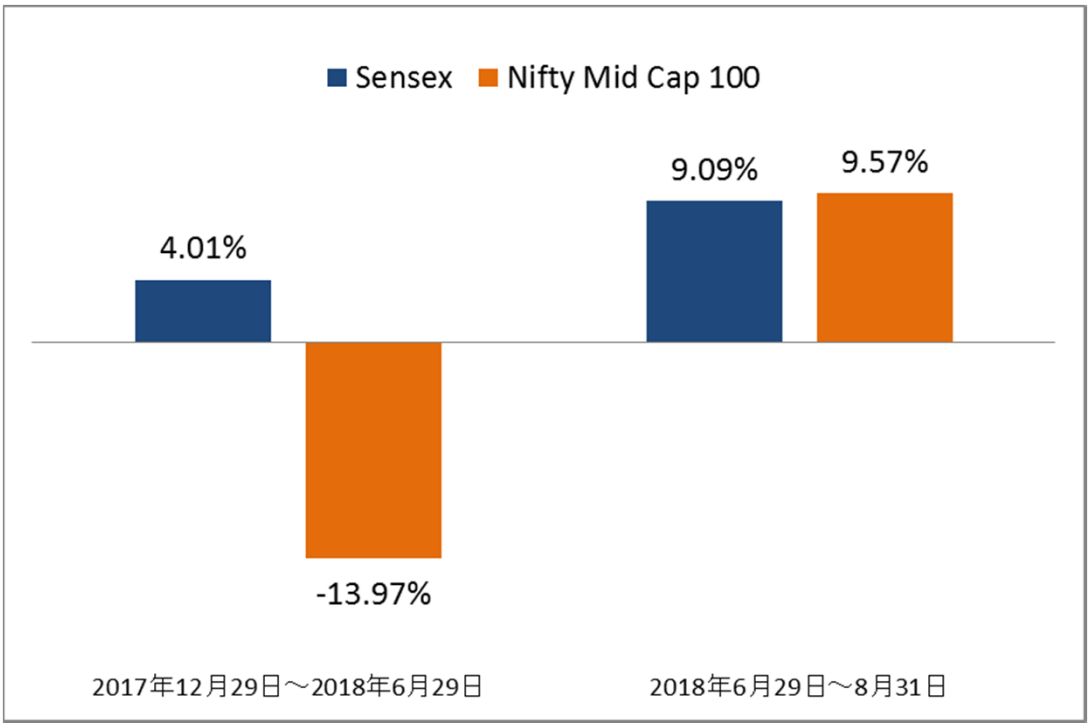
また、インド籍株式投信の分類変更で中大型の分類ができたことに伴う中型株から大型株への資金シフトや、会計監査に必要な正確な情報を会社から十分にもらっていないことを理由に監査法人が相次いで辞任するなど、一部企業に関する不祥事も中型株離れの要因となりました。

今後の見通し

＜中長期では、外部環境の安定につれて、中型株への関心も高まっていくことを予想＞

年初から中型株の上値を重くしてきたこれらの要因の中で、足元の株価調整やリスクの出尽くしにより、今後2)と3)が中型株に及ぼす影響は限定的と考えます。中型株の本格的回復の条件としては、1)で指摘しました外部環境の改善が必要と考えられます。実際に、外部環境の不透明感が高まった6月までは中型株も低迷した反面、マーケットが反発し始めた7月以降は、中型株のパフォーマンスが大型株をアウトパフォームする兆しを見せており、外部環境の安定が中型株反騰の前提条件であると思われます。

＜SensexとMidcap 100のパフォーマンス比較＞



出所：ブルームバーグ

当面は、米中貿易摩擦の再燃可能性や経常収支の悪化、市場金利上昇を受けてインド株式市場が不安定となり、中型株のボラティリティも拡大する局面が発生しうるとみられます。しかし、中長期的には、外部環境が安定するにつれ企業利益への注目度が上がると、大型株より高いポテンシャルを有する中型株への関心も高まっていくと予想されます。従って、足元の短期的な中型株の調整はむしろ良い投資機会になると考えられます。

ミレー・アセット社は、中型株の中でも所得増加や都市化の拡大、GST（物品・サービス税）制度の定着などから恩恵を受け、長期的な利益成長が見込まれる消費財や金融セクターをポジティブにみており、今後も当該セクターへの投資を続ける予定です。

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

ダイワ／ミレーアセット・インド株式ファンド －インドの匠－

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

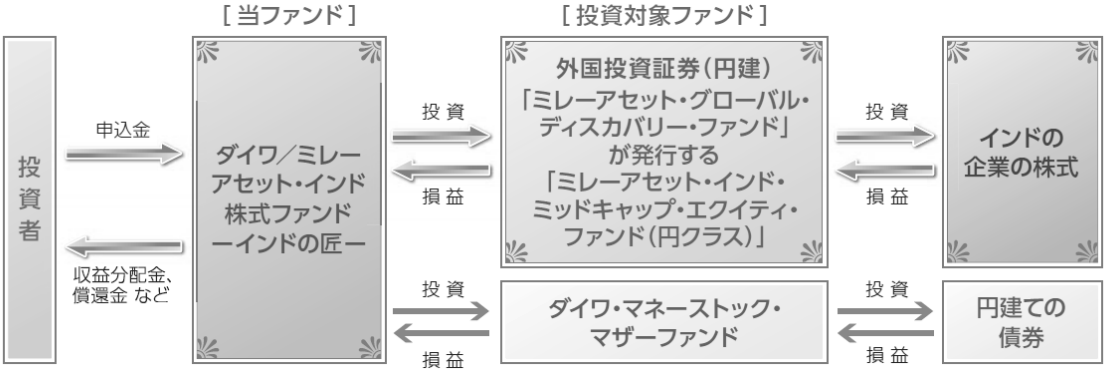
ファンドの目的・特色

ファンドの目的

インドの企業の株式に投資し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

1. インドの企業の株式の中から、財務状況、成長性、経営の質等に着目し投資します。
   （注）「株式」…DR（預託証券）を含みます。
2. インド株式の運用は、ミレーアセット社が行ないます。
3. 当ファンドは、以下の２本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。



※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「中小型株式への投資リスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」
※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。
※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ダイワ／ミレーアセット・インド株式ファンド －インドの匠－

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉3.24%（税抜3.0%）	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	―
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用（信託報酬）	年率 1.215% （税抜 1.125%）	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする投資信託証券	年率 0.68%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する運用管理費用	年率 1.895%（税込）程度	
その他の費用・手数料	（注）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。
※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。
※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社：大和証券 Daiwa Securities
商号等　大和証券株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第108号
加入協会　日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用：大和投資信託 Daiwa Asset Management
商号等　大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第352号
加入協会　一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会